



発行・カトリック水巻教会
 編集・広報委員会
 遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3
 〒807-0025
 TEL 093(201)0680 FAX(201)7354
 第351号

ホームページアドレス <http://mizumaki-church.sakura.ne.jp>

「福音宣教について語り合う会」等が発足

2016年度宣教委員会(岩本ナセさんを委員長とする)によって、新規に活発な活動が提唱され、その基本となる会合「福音宣教について語り合う会」が、7月24日に持たれました。司祭、小教区委員長と、主に教会内の活動グループ、聖書研究会のメンバーが集まり、現状の報告や意見を述べ合いました。

●基調として、岩本ナセさんから紹介された趣旨は次の様なものでした。

「宣教するとは、説教することではありません。わたしたちの存在そのものが語りかけるのです。」(福者マザーテレサ) 福者マザーテレサの発するメッセージを聖堂の中に閉じ込めて封じようとする人などいるでしょうか。・・・**真の信仰** 一決して気楽なものでも個人主義でもない—とは、世を変え、価値を伝え、地上での歩みの後によりよい何かを遺そうという望みをつねに抱くものです。(教皇フランシスコ、福音の喜び183)

●具体的な活動に準じて、参加メンバーによって議論されたことは次の様でした。以下では、話し合いの小項目(下線)と、それに対する意見の順で書いてゆきます。

※宣教について、一人ひとりの思いを分かち合うことから歩み始めたい。

- ・教会に行くのが楽しいと思えるように、いろいろなアイデアを持ち寄り実践したい。
- ・病者のために祈って欲しい⇒共同体のメンバー皆に知らせお祈りして頂いたことで病

と闘う勇気を貰った、お祈りは大きな恵、力で、感謝している。(公表は本人が希望する場合のみ)

・新しく水巻教会に来られた人の紹介をしたら良い。

※小グループの活動も宣教活動の一つだ。

・冠婚葬祭の会；地区役員が加わり、信徒一同としての運用を検討する。

・ミサ案内係；田中(折尾)中村(中間)岡田(海老津)福田(遠賀)で構成。ミサに来られてない人を探し出す方法を検討する。

・聖書の分ち合い；プロテスタントの方が参加された。

・各グループ活動のアピールをする。

※近々の課題である熊本地震へのボランティアについて、特に議論がなされた。

・熊本地震被災地のボランティア活動は「からしだね」で継続的に記載していく。

・水巻教会の活動として熊本地震被災地のボ

熊本震災ボランティア	2面
スティーブ神父様紹介	3面
平和の集い	4・5・6・7面
お知らせ・今月の聖人	8面

ランティア活動に参加、協力する。宣教委員会が世話係になり、菊池ボランティアセンターを通して活動する。

・善意の人達が全国から多数集まっています、テント泊まりをしている。民家の方々が喜んでくださり、人間の優しさに触れることができた。一人でも多くの方が参加して体験して

欲しい。

・活動費：教会会計に実費を請求する。ガソリン代、有料道路通行料、ボランティア保険等
○活動月日の報告、6月18日(日)19日(月)7名参加、7月16日(土)17日(日)18日(月)4名参加、8月はお休み。9月は日程が決まり次第報告する。



熊本震災ボランティアに参加して

対馬 須美江

4月14日からの一連の熊本地震で、大きな被害を受けた益城町の近くの西原村で、5月30日から6月4日迄の6日間、ボランティア活動に参加しました。

初めの4日間は、現地で瓦礫撤去、家財の運び出しの作業で、初日は、本当に作業は終わるのだろうかと心配でしたが、カリタス熊本に集まった人達と一緒に行動したので、いろいろな手続きもスムーズに終わり不安もなく始めることが出来ました。

車で現地まで行くのですが、その途中崩れた家に「全壊」と書かれた赤い札が壁に貼ってあるのです。そんな光景を見ると、本当に大変なことが起こったんだなあ実感しました

瓦礫の撤去はいろいろな危険と隣り合わせで、リーダーの指示に従いながら進んでいきましたが、慣れない力仕事で、ホコリと汗にまみれて、帰りはぐったりでした。

最終日は、天候が悪く現地の活動が少ないということで、シスター達と一緒に支援センターに行きました。センターでは室内清掃と被災者の方々の話を聞きながら最後の日が終わりました。

今回のボランティアではたくさんの人と出会い、いろんな話を聞きました。

私が行っても手助けできるだろうか、何をすればいいのだろうか、いろいろ不安や心配があると思いますが、現地で求められているのは、必ずしも体力や経験が必要なものばかりではありません。考えるよりもまず第一歩を踏み出すことが大切だと思います。これからも無理せずできる範囲で、ボランティアに参加したいと思っています。

御 礼

熊本支援センターの活動を支援していただき本当にありがとうございます。

皆様の温かいお心と、被災された方々や被災地のことを忘れずに心にとめてくださっていることに心から感謝申し上げます。皆様に支えられて熊本支援センターは、日々変化するこの地の必要性に応える活動を継続していくことができます。今後ともご支援よろしくお願いいたします。

熊本県菊池市隅府 カリタス福岡
熊本支援センター・スタッフ一同

次は、9月18日、19日に行きます。

これから約1ヶ月、水巻教会に来られるスティーブ神父のインタビューです

スティーフェン・ロサリオ(スティーブ) 神父：1984年10月インド生まれ。2003年にオプレート会の神学校入学、2009年に初誓願、2012年に終生誓願と助祭、2013年5月29日に叙階式、2013年8月18日に初来日(大阪)、2年間名古屋のYWCA日本語学校で日本語を勉強しました。2015年10月から古賀教会で協力司祭として働いています。

☆私達はスティーブ神父の日本語が、あまりに上手だ、と思います。ご自身は、どうやって上達したと思っておられますか？

●日本に来た時は「ひらがな」もわかりませんでした。最初の一週間で、日本に住みたいなら一番大切なのは日本語ということがわかりました。これを理解した上で日本語の学校に通い始めました。日本語学校では文法と語彙を勉強して学校にいる先生や同級生とだけ会話をしてきましたが、一年後には社会に出て外国人の小学生に日本語を教えるというボランティアをしました。そして誰に会っても日本語で会話して練習しました。それに加え、国際交流会の方々と小学生の交流会にも出てインドについて発表をしました。これらのための準備は日本語の勉強になりました。一番よかったのは、日本人や外国人に英語がわからないふりをして日本語でしか話さなかったことでしょう！

☆インドの中で、どのあたりの出身ですか？

●私の出身はタミルナードゥ州です。それはインド共和国の東部にある州の一つです。

☆インドに居て、キリスト教徒、カトリック教徒であることは大変ですか？ ヒンズー教が多数でしょうか。ヒンズー教の人たちから、あるいは、一般的なインド人の中で、どのように見られていますか？

●インドに居て、キリスト教徒であることは大変ではありません。なぜなら、子供が18歳までは両親の宗教とその習慣を続けます。18歳の後、自由に好きな宗教を選ぶことができますが、そのまま同じ宗教を続けることが多いです。キリスト教徒だから日常生活には困りません。他の宗教の人々とは、友人や仲間や兄弟みたいな生活もできます。けれども宗教関係が、大きな喧嘩になり、酷い戦いがとこにより起きてきます。どんな喧嘩かと考えるかもしれませんが、ここは説明し難いので説教とかで、またお話し出来るとき話しましょう。

☆マザーテレサの働きにインドで接したことはありますか？ インドではマザーテレサは、どのように思われていますか？

●インドにあって、マザーテレサは素晴らしい人だと思われています。もちろんマザーテレサの活動が認められています。人々に生きている聖人だとも呼ばれました。今も宗教関係でなくとも、色々な方が自分ができる形で手を貸しています。私も10日間働いたことがあります。とても大変でした。

北九州地区平和の集い(8月7日、於・小倉教会)が、「日々の生活の中で、キリストの平和を実現しよう」とのタイトルで行われました。前半は諸活動団体発表(聞いて下さい、私達の取り組みを)、後半は大分教区浜口司教の講話でした。下記、全体を通した報告と、特に諸活動の取り組みから2つを詳しく掲載します。

北九州平和の集いに参加して

赤間地区 矢田公美

北九州信徒使徒職協議会主催の第16回北九州平和の集いが8月7日開催されました。第一部は、各小教区で平和祈願ミサ、第二部は、午後一時から小倉教会で「平和の集い」です。今年のテーマは「日々の生活の中で、キリストの平和を実現しよう」でした。

平和旬間(8月6日広島への原爆投下から終戦の15日まで)は、1981年2月25日、聖ヨハネ・パウロ二世教皇が広島でなされた力強い平和アピールに呼応して、翌年から、日本カトリック司教協議会が定めたそうです。北九州平和の集いは2000年に始まり8月6日～9日の間の日曜日に行われ今年で16回目です。

まず活動グループによる発表がありました。

最初の発表は、門司教会の平松修實氏でした。東日本大震災被災地ボランティアを2013年から門司教会の信徒有志を主体に毎年3月下旬に4泊5日を実施され、現地の写真入りで、詳しい状況や推移、参加者の体験報告を冊子にしておられました。参加者は、小学生から中学生、高校生、60代、70代の女性などで、貴重な体験をしたためにおられました。

2番目に原山映子さんが抱樸(ホームレス支援機構)の活動について話されました。30年近くホームレスからの脱出を支援してきました。水巻教会ではお弁当づくりを手伝っています。活動は「人が人によって立ち上がる」自立支援を目標に、社会的に困窮・孤立している高齢の障がい者、格差社会による貧困の犠牲になっている子ども達とその家族支援にも広がっています。

今年の平和義援金の支援先は東チモールとなっています。イエズス会の山内保徳神父がインパクトあるアピールをされました。イエズス会の浦善孝神父が東チモールでの教育支援として、学校(聖イグナチオ学院)を立ち上げようとしておられます。植民地支配が残した言語の問題があるようです。ポルトガル語は、支配階級の言葉、やっと占領支配をのがれたインドネシア語は×、英語は△、現地のテトゥン語は、語彙が少なく、書き言葉の発達が遅れているなどです。平和の集いの献金が東チモールの教育支援の一助となることを願います。

4番目は恒例の九条の会メンバーによるコントで、自民党憲法草案への危惧が披露されました。天皇元首、国防軍、内閣総理大臣を国防総指揮官とするなどです。

交流タイムの後、大分教区の浜口司教様のお話となりました。司教様は前日、ポーランドのクラクフで行われたワールドユースデイから帰国されたばかりでした。一般的に「平和」

といえば、戦争の無い状態といわれますが、キリストの平和は、神の恵みで喜びに満ちた状態です。十字架は神のいつくしみの頂点です。人間は神の似姿に創られている。生活の中で人の悩み、苦しみに共感出来ることが大切だ。殺人工場であったアウシュビッツの責任者は収容所のそばに家族と住んでいたそうです。わたしたちは、人の痛み、苦しみに無関心であってはならない。神の愛おしみは断腸の思いで、心奮わせる神の愛の証人として自分の心の中にいつくしみの共感を芽生えさせなければならない。司教団は今秋再び脱原発と平和のメッセージを出します。メッセージを直接核保有国に届けるべきだという考えもあります。

東チモールのこと イエズス会(福岡) 山内保憲神父

イエズス会福岡修道会の山内保憲と申します。福岡の上智福岡高校(旧泰星高校)でも勤務。修道院と学校の往復で、現場では外に出る機会が少ないのです。そこで、小倉で、話せと言われ、うれしく思っています。

去る1月30日~2月9日に、東チモールに行ってきました。皆さんに支援していただいている聖イグナチオ学院中学高等学校、および聖ジョアン・デ・ブリトー教育大学が開校する場面に立ち会うことができました。イエズス会東アジアの管区は、東チモールに力を入れています。特に、修道会の日本支部は支援しています。

北九州出身で、上智泰星学園で働いてきたイエズス会の浦善孝神父が、学校の立ち上げを頑張っています。その彼を慕って、東チモールへ行きました。彼の修道院は、美しい。

浦神父に会い、連れられてその修道院に行こうとしたとき、あの、いつも沈着冷静な浦神父が、「うあー」と叫びました。どうしたのか、ブレーキオイルが抜けたということでした。たまたまカーブのところで止まりました。浦神父は「山内さん、死ぬところでした。」と言いました。これで浦神父と緊密な絆ができたと思います。

日本人が東チモールを支援するという事、その意味については、若い人にその交流を含めて示したいと思います。

特に、植民地支配の問題点を一緒になって考えることができます。これを想像する場合、しばしば身近な問題に置いてしまいます。ここでは逆に少し離れたところにある、人口の小さな問題。そこで起こっていること、小さな世界の縮図の様な形で捉えたい。本当に支援をして困っているから助けてあげるのではなく、世界のしくみはこういうことだと勉強できる機会になります。

アジアで、最も貧しい東チモールでは、14歳以下が40パーセントを超えます。どう考えても教育が必要なのは間違いありません。しかし、教育は簡単ではない。とても難しいことだ。まるで解けない問題を解けという難問です。ちょっとかいつまんで説明させて下さい。

東チモール政府は、教育をポルトガル語でやっていくといいます。インドネシア語は、今

まで長くインドネシアに支配されてきたので、多くの人に使われているのですがもう使いたくない。教育の現場にはふさわしくないと考えます。

「参考、東チモールとは、旧インドネシアの一部。人権侵害な行為がインドネシア政府によって行われ、それに勇気をもって対抗したベロ大司教と、後の大統領ラモス・ホルタ氏はノーベル平和賞を受賞しました。後に、住民投票を実施して、インドネシアから独立しました。しかし、独立を果たしても、世界の最貧国の1つから抜けられない状況となっています。」

それから、英語は、オーストラリアと緊張関係になるので使いたくない。現地語のテトウル語は共通語の様にも言われるが、村々や部族間で違う言葉であり共通ではない。この上で、自分達の国の identity を守っていくと、結局残ったのが、かつて植民地支配していたポルトガルのポルトガル語ということになりました。

それを母国語としてしゃべれる人は中高学校の教員では一人。教育大学ではオーストラリアからのシスターが、ポルトガル語を使う様に指示されたところです。

そこに新たな問題が挙げられます。(東チモールをインドネシアから解放した)解放軍の英雄たちはどうなっているか。丘の上に豪邸が建てられています。昔の支配者の生活のようになっています。教会が独立の拠点となり独立を支えてきたのだが、今はおかしなことになっています。32億円の建築費をかけた大聖堂を作ろうと、神父達が頑張っています。教会をもっと広げて、教会は貧しい人に目を向けるかと思ったら、貧しい人に献金を出せと言って32億円の聖堂を建てるといふ。

山の上の学校にゆくと、豪華な車で見たことのない富裕層の子弟が郊外から来ています。浦神父を中心とする尽力と支援。それは村の貧しい子供のためなのに、30分かけて都市から裕福な子供たちが車に載せられて通学してくるのです。

この上で何ができるか、浦神父がやろうとしているのがウルメラ村プロジェクト。この貧しい子供たちを支援する。お金持ちの学校にしないための方策。国全体のためエリート教育も大切だが、自分の村だけのこの村のこの子供たちを、自分達の学校に入れる。小学生の塾を作る。この何年間の間に変化を見ながら、できることは何か考えながら。

日本のこともこれを見ながら考えてゆきましょう。次のことを考えること、育ててゆくことを、よろしく願います。

青年のボランティア活動体験(南相馬訪問)

門司教会 平松修実さん

門司教会を中心に行われた4回におよぶ、南相馬を対象としたボランティア活動(第1回目だけでも、高校生2名含む9名参加、第2回10名、第3回7名、第4回9名)等を総括し、会場で配布された充実したパンフレット「東日本大震災被災地ボランティア -地震・津

波・原発事故3重苦の南相馬を主として」を使いながら、災害と、復旧と、その間の支援活動について説明がなされました。特に、通常の震災被害に加え、帰還困難区域の設定など、原発の放射線汚染による被害が加わり、最近では帰還困難区域からの解除自体も悩ましいことなどが、パンフレットに織り込まれている地図や写真を使いながら、詳しい解説がなされました。最後に、パンフレットにも載っていた1頁程度の文章の朗読がなされ、一同、共に祈りました。(広報委員 三谷尚)



抱僕(旧ホームレス支援機構)の原山映子さん



東チモールの講話 イエズス会山内保憲神父

平和の集いの最後、子ども達による奉納



お知らせ

★敬老お祝い会★

日時：9月11日(日) 11時～

場所：水巻教会 信徒会館

今年も敬老のお祝い会をします。お手伝いできる方は、ご協力ください。

また、ミサ中に希望者の方に、病者の秘跡を行います。

★熊本ボランティア★

面にも載せていますが、9月に再度熊本へボランティア支援に行きます。

日程 9月18日(日)～19日(月)

たくさんの方の参加をお待ちしています。

★特別献金★

北九州平和の集い献金 17,520円

ご協力、ありがとうございました。



【転入】ようこそ!水巻へ

◇大塚 孝さん

静江さん

さいたま教区土浦教会から

折尾地区へ



今月の聖人

16日 聖チプリアノ司教殉教者

?-258年

当時、デキウス帝の迫害で棄教したキリスト教徒が、教会に戻る事が問題となりました。教皇コルネリオは「司教によれば、大罪をゆるすことができる」と主張し、チプリアノがこれを支持して、ノヴァティアヌス派に対抗しました。また、ノヴァティアヌスによって分裂した教会で受けた洗礼について、チプリアノはその有効性を認めませんでした。

チプリアノ司教は、同じ9月16日に記念する教皇コルネリオをあらゆる面でよく助けました。チプリアノは、教会が一つであるために、使徒ペトロの後継者である教皇のもとに、司教、信徒たちが一致することの大切さを強調しました。

ヴァレリアヌス帝(在位253年-260年)の迫害のとき、チプリアノはチュニジアのカルバに追放され、投獄されました。258年、「神に感謝」ということばとともに、斬首によって殉教しました。彼は優れた著作家でもあり、『主の祈りについて』『善行と施しについて』などがあります。

